

ふくしま よしひと
福島 嘉人

自然災害に備える…

●自治労・書記長

この原稿を書いている今、奇しくもCOP21（国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議）が開催されており、地球温暖化をくい止めるために温室効果ガスの排出量の削減に向けた協議が行われている。

このまま何もせずに温室効果ガスを排出し続ければ、今世紀末には地球の平均気温が最大で5℃近くまで上昇すると予測されているという。

その結果として海水の熱膨張や氷河が融けて海水面が最大で80cm程度上昇し、そして異常気象が地球全体で起こると言われている。

日本においても気温が上昇し、夏には40℃を超える日が当たり前になり、台風は海水温の上昇により強大化・強力化し、風速70メートルを超える強力な勢力のまま上陸するという。もちろん降水量も増え、ゲリラ豪雨と言われる局所集中の大雨による被害が更に増加することは容易に想像できる。今は異常気象とは言いが、それが異常な気象ではなく通常の気象になってしまうのだろう。

この異常気象はもうすでに始まっていて、夏は猛暑日（35℃以上の日）が続き、台風は「史上最強の…」と言われることが多いし、雨は強さを増して冠水や河川の氾濫、そして冬は都市部でドカ雪が降ったりしている。

しかも、今現在においても過去最強のエルニーニョ現象が起きていて、これからの気象に大きな影響が予想されているとの事である。

異常気象だけでなく、大きな自然災害には地震によるものや火山の噴火によるものもあ

る。

日本や近海の地殻変動は2011年3月11日の「東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）」以降、活発な活動期に入っているとも言われている。火山活動が活発になり、警戒レベルの上昇による立ち入り禁止地域の拡大による影響や噴火による人的被害も起きてしまっている。

20数年前のことになるが、仕事の関係で防災の研修を受け、その時に自然災害の話聞いたことがある。

当時、静岡県伊東沖の海底火山が噴火した直後であり、その講師は「日本は火山が沢山あり、その火山帯の上に人々が暮らしている。今回の海底火山の噴火は、たまたま地殻の割れ目が海の底にあったから、そこでマグマのエネルギーが噴出しただけであり、もし、街中に地殻の割れ目があればそこで噴火が起きても何ら不思議ではないものであり、地殻の変動や群発地震などによる予測や警戒、日ごろの備えは怠ってはならない。」と言っていた。

また、夜中におきる自然災害は、得てして甚大な被害をもたらすものであるが、雨による自然災害は夜におこりやすく、なぜならば、雨は空気中で蒸発していくもので、昼間は雲の上には常に太陽があり、その熱によりかなりの水分が蒸発するため、太陽の無い夜の方が多くの雨が降り、更には多くの人々がそれに気付かず対応が遅れがちになるためだと話していた。



自然災害から生命・財産を守るために昨今は行政も多くの力と財源を割いている。降雨対策としては下水道の完備や処理能力の拡大、一時貯留槽の増強、河川においては堤防の強化や遊水地の整備などである。

しかし、地震となると個人の備えに因るものが多くなる。ライフラインの復旧は行政や事業者が行うものが多いが、日頃の対策が肝心である。

まずは自らの生命を守るためには、家の補強はもちろんであるが、家具の転倒防止やガラス等の飛散防止の対策などが必要である。そして、食料や水の備蓄が重要であるの言うまでもないことである。食料や水は行政でも備蓄はしているが指定された場所へ行かなければもらうことはできないし、そこへ行けるとは限らないのであるから、やはり自らが用意しておくに越したことは無い。

言われているのは最低3日分、安心するためには1週間分と言われているが、そんなに沢山用意しておける訳が無いと思われるかもしれない。

ただ、これらは備蓄してしまっておくだけでなく、日々日常的に消費しているものも含んでいるのである。

飲料水であれば、ペットボトルのお水を何本かストックしておき、飲んだ分だけ補充していく。

食料も非常食だけでなく、インスタント食品やカップ麺、レトルト食品、パスタやお餅、缶詰等を多めに用意しておき、

日常的に消費していきながら補充していくという方法で用意しておけばいいのだ。そして、いざという時にそれらを利用するにはカセットコンロと水は欠かせないことはもちろんである。

生活用水は水道水をポリタンク等に用意しておくことになるが、飲料水と別に考えれば数日は置いておけるものであり、交換の際には、洗濯やお風呂に利用すれば無駄にせずに済む。

自然災害に対応するためには、こういった「備え」が大切であり、他人任せや他人事で終わらせてはいけないのだ。

もちろん他にも、家屋や家財の耐震対策や家族との連絡体制、近隣や地域の自治組織との連携など色々あるが、全て「備えあれば憂いなし」なのである。

まるで役所の防災担当のようなことを書いてしまったが、実は自分は20数年前に役所で防災担当をやっており、改めて自分自身に言い聞かせる意味も込めてこのことを書かせていただいた。

新たな年を迎え、安心して暮らしていくためには、やっぱり「備えあれば憂いなし」の気持ちを持って物事を実践していかなければならないと思った次第だ。

ぜひ皆様も、出来る事から実践してみてはいかがでしょうか…